

「有田地域の医療の充実を求める意見書」を地元4議会が採択

～産科医派遣、医療体制の強化を知事に求める

有田市立病院の分娩が中止されることを受けて、地元「有田地域の医療の充実を求める会」が昨年末に学習会を行い、分娩の再開と入院ベッド減らしの地域医療構想の見直しを求める運動に取り組んで来られました。住民署名活動をすすめるとともに、各議会に請願を行い、これまでに、有田市議会、湯浅町議会、有田川町議会、広川町議会において県知事あての意見書「有田地域の医療の充実を求める意見書」が採択されました。この中で、厚労省が統廃合対象に424病院を名指しした問題が不安を住民の間に不安を広げていること、有田地方には高度急性期機能病院がないこと等を指摘し、県知事に産科医の派遣を求めるとともに、医療体制の強化を求めています。

◎同居家族がいる場合の生活援助 マニュアルを改正～和歌山市

和歌山市はこのほど、「同居家族がいる場合の生活援助の取り扱いについて」（マニュアル）を改正しました。これまでは、「同居する家族がいる場合には原則サービスは提供できません」と書かれていました。このため、ケアマネージャーなど関係者から改善を求める声が出されていました。坂口多美子議員（共産党）がこの問題を2月議会に取りあげて、当局から改善を行う旨の答弁を引き出していました。この答弁に基づいてマニュアルが改正されたものです。新しいマニュアルでは、「同居する家族がいる場合には原則サービスは提供できません」箇所が削除されました。また、「障害、疾病のほか、同様のやむを得ない事情により家族が困難な場合はサービスを提供することができます。」と記されました。

★6月の年金天引き日宣伝行動

年金の引き下げ反対、高い国保料の引き下げを訴える



6月15日の年金支給日に合わせ、県社保協はJR和歌山駅前にて宣伝行動・署名活動を行いました。

和歌山市内でもコロナ感染防止の自粛要請が解かれましたが、署名の際に人との距離を取る為に机を用意し、そちらで署名して頂けるようにしました。

この日はとても暑く、人通りも少し少ないようでしたが、年金を毎年引き下げるマクロ経済スライドを廃止し、普通に暮らせるだけの年金を補償する事や、年々高くなっている国保料の引き下げの事を町ゆく人達に訴え、ティッシュを配りました。

◎後期高齢者医療、介護保険、国民健康保険の不服審査請求行動を実施します

7月11日（土）に「スタート集会」を開催します

午後1時30分より プラザホープ4階ホールにて